

や根株の樹皮下にいとされている。

県下 2 種のタマムシの分布 (兵庫県甲虫相資料・85)

高橋 寿郎

ヤスマツケシタマムシは小さいが美しい種である。たゞ本種の兵庫県下からの記録は次の3地点しか知られていない。小形種なるが故に見落されていると考えられる他の産地の記録の発表を待ちたい。

氷上郡青垣町神楽 [1 ex., 10-V-1958, 待場嘉昭採集, 山本義丸, 高橋匡, 1962]。宍粟郡波賀町音水溪谷 [1 ex., 11-VI-1972, 筆者採集, 所有], 赤西溪谷 [2 exs., 29-IV-1977, 松田潔採集, 秋山黄洋, 1980]。

ルイスヒラタチビタマムシは戦前神谷一男氏によって関口俊雄画伯の見事な筆による原色で図説されて是非自分の手で採集したいものだと思っていた種である (日本の甲虫, Vol. 1, No. 1, P. 4, pl. 1, fig. 7, 1937)。

兵庫県下からの記録は奥谷禎一博士による養父郡関宮産が始めてである (新昆虫, Vol. 8, No. 5, 1955)。その後辻啓介氏は多紀郡篠山町篠山城天守閣跡の石垣のノバラの葉についていたのを採集発表され (1 ex., 10-V-1962, 兵庫生物, Vol. 6, No. 2, 1970), 遊磨正秀氏も養父郡氷の山で採集されている (中国山脈東端の昆虫相, 1974)。筆者は相生市三濃山で叩き網で採集した (1 ex., 20-V-1973)。以上が現在わかっている本種の県下での記録である。倉本康司氏は1977年氷上郡山南町和田地区で冬季ケヤキの樹皮をめくってゆくと本種が多数いることを御教示下さった。その様な方法で探して見ると本種は割合いる種なのかもしれない。美しいが小さい故に見落されているとも思われる。産地の報告を期待したい。